



ガンバッテいきます



JA菊池「菊池のまんま 菊陽店」
出荷者
藤原美恵子さん



山田 精哉さん
JA鹿本 園芸部会長

大根は短形品種のミニ大根を栽培しています。普通の大根のおよそ半分の長さで、カットしなくても冷蔵庫にまると保存でき

●甘藷と大根
藤原さん宅では甘藷2ha、大根45a、米40aを作っています。嫁い

甘藷は6月頃に定植し、10月から11月まで収穫して出荷。「収穫時は近所の人たちが手伝ってくれるので、ありがたいです」とのこと。品種は「ほりだしくん」と「紅はるか」の2種類を栽培。「ほりだしくん」は煮崩れしにくいので、天ぷら、大学芋に向いています。「紅はるか」は濃厚な甘味のある蜜芋の一種です。水分が多いの

ます。品種は「小太りくん」、「葉根っこ」、「四季姫」の3種類を栽培。煮崩れしにくいので、サラダや漬物、そして煮物にもオールマイティに使えます。さらにスリヤが遅く長持ちするそうです。大部分は京都へ出荷することです。

●明るい直売所です
「菊池のまんま」では新米フェアや、えこめ牛のハンバーグ試食会等のイベントを毎月開催して

●チエックは大事です
直売所へは甘藷を主に出荷しています。1袋を約800gに調整し、一度に20〜30袋出荷。1袋詰めにするときはキズの有無をしっかりと確認しますとのこと。またコンテナにPRのシールを貼ったり、試食PRをしったりします。以前大根の煮物を試食販売したところ、とても好評だったそうです。また直売所以外にもいきなり回子屋に甘藷を卸しています。

●今後の抱負
藤原さんは今後の抱負として、「もうちょっと頑張ってお客さんへの加工品を出したいです。何かあっても、皆が励ましてくれるので、くよくよ考えず、前向きにやっています」と話してくれました。

います。12月のイベントでは豚汁600食を作り、無料でサービスしました。販売スタッフの人達はみんな明るく元気がいいです」という藤原さん。「体調が悪くて出荷できなかった時や、直売所に行けなかった時は、スタッフさんや直売所の仲間が『心配しなよ』と声をかけてくれます」とのことでした。

●スイカの生産は半減
両親の代からスイカ作りに取り組んでいる山田さんは、奥さんと息子さんの3人で、1.2haのハウスで大玉スイカを栽培。普通栽培を4月中旬〜6月末にかけて、立体ハウス栽培を10月下旬〜12月上旬まで収穫し、年2回出荷しています。

●生産の喜びと課題
熊鷹高を卒業以来、就農して36年になる山田さん。農業は自然との闘いと言いつもの、昭和58年の雪害と、平成3年の二度にわたる台風に

●TPP絶対反対！
TPP締結には当然反対であると言いつ山田さんは、「蔬菜類は関税も低く、生鮮野菜の輸入には限界がある

●好きな言葉
「何でも長くなつてくると、工やおごりの気持が態度に出てくる。やり始めた時の謙虚な気持ちを忘れず、人のために尽す心がけが大事である」

スイカの産地で有名な植木町で、スイカ栽培を行っている山田精哉さん(54歳)を取材しました。山田さんは、JA鹿本の園芸部長としても活躍されています。

が下がった一方で、資材や燃油などの生産コストが上昇したことが最大の要因」と言い、後継者不足で高齢化したことも影響していると言います。

は泣かされた」と言います。一方で、10年くらい前から生産者の顔写真を貼って出荷している関係で、「クレームもたまにあるけど、「おいしかったよ」と、お礼の手紙をもらった時は最高に嬉しい」と、生産者にしか味わえない喜びを語ります。

ため園芸農家への影響は小さいだろう。しかし、仮に米農家や畜産農家が立ち行かなくなれば、野菜を作る農家が増えてくる。そうすれば、生産過剰になり価格が暴落して自分達の経営にも波及する」と語り、合意に向けて協議を進めているTPP交渉に不安感を示されました。